



歯科医院に1冊！ 障害者歯科臨床のバイブル

月刊「デンタルハイジーン」別冊

あなたの歯科医院に障害のある患者さんが来院したら？

歯科衛生士のための障害者歯科入門

小笠原 正・石井里加子・梶 美奈子・寺田ハルカ 編著

AB判／160頁／定価 3,850円(本体 3,500円 + 税10%)／医歯薬出版(2023年5月)

歯科衛生士として、障害児の母として

わが子が発達障害と知らされたとき、私は鈍器で殴られたような鈍い痛み、そしてどん底に突き落とされたような悲しみに見舞われ、そこからわが身を構う暇も余裕もない、笑顔のない日々が何年も続きました。

元々、2歳上の姉に比べ成長が早かった息子。言葉や数を覚えるのも早く、愛想もよく「末は博士か大臣か」と周りが羨むほどでした。私自身も、反応のいい息子の子育てにワクワクしていました。

2歳になったころ、ある日突然笑顔と言葉がなくなり、朝のおはようも言わず、能面のような無表情とともに一気に多動に、糸の切れた帆のようにどこかへ行ってしまう目の離せない子になりました。

診断は「折れ線型。知的障害を伴う自閉症スペクトラム障害」。定型発達の子どもの半分以下の知能しかない、重度の自閉症です。一生治ることのない脳機能の障害……。

もし、「自分の子どもがそうだったら……」と考えても、うまく想像できないかもしれません、私も自分が障害者の母親になるなんて考えたこともありませんでした。

効果的なコミュニケーション

知的障害者の平均寿命は、健常者より15年ほど短いといわれ、情報の処理がうまくできず溜め込んだり、言葉の理解や受け取り方にもこだわりや特徴が多くみられます。

たとえば、本別冊にもあるように、「清潔」であることを表すために「きれい」という言葉を使いますが、そのほかに、「色や景色がきれい」「きれいに整理する」「きれいな心」など、さまざまな意味、使い方があります。定型発達児がこれを弁別できるようになるのは、発達年齢が8歳という研究報告があります。しかし、わが子のような重度の自閉症の場合は8歳の時点でも3歳児以下の理解力であり、中等度、軽度の場合でも6歳児相当の理解力のため、一般的なコミュニケーションではうまくいきません。

歯磨きの大切さを伝えるときも、「きれいに磨きましょう」というより「汚いねえ！」「バイキンマンをやっつけよう」「バイバイキーン！」というように「汚い」という動機的言葉を選択した声掛けのほうが効果的なことがあります。本別冊では効果的な声掛けにも十分配慮して書かれており、診療室ですぐに活用することができます。

わが子と歯科治療

知的障害のある息子は、歯科医師と歯科衛生士の子どもにもかかわらず、歯磨きを嫌がり、口腔内も齲蝕だらけでした。治療をしようと家業のクリニックに連れていっても、恐怖心が強く、トイレに逃げ込んでしまい、おもらしをする始末。これまで対応したなかで、一番難しい患者が、恥ずかしくもわが子なのでした。

長年、息子は感覚過敏が原因で歯磨きを嫌がっているのだろうと思っていました。それにしてもあまりにも歯磨きを嫌がるため、意を決して市の障害者歯科センターを受診。全身麻酔による歯科治療をお願いしようと思っての行動でした。すると、

「お母さん、全身麻酔もいいけど、この子できるかも。回数はかかるけどチャレンジしてみましょうか」とセンター長の先生。

「お母さん、歯科治療しても歯磨きができないたら、また同じことの繰り返しになっちゃうから、1回、歯磨きの練習をしてみてもいいですか?」というベテラン歯科衛生士の言葉。

息子のことを考え、いばらの道を選択してくださるなんて思ってもおらず、母としてとてもうれしかったのです。息子を一人の患者として向き合ってくださったことが。

正しいアプローチとの出会い

お任せしてみると、そこには嫌々ながらも頑張る息子の姿が。いまでは局所麻酔での治療までできるようになり、14本もあった齲蝕も無事治療終了。いまでも定期的に検診で通院しており、あれほど嫌がっていた歯磨きも、いまでは毎晩自分からしてくれるようになりました。

私は感覚過敏で歯磨きができないと決めつけていたのですが、どうやら前歯の齲蝕が痛くて磨けなかつたようなのです。「なぜ磨けなかつたのか?」「なぜ歯科医院での治療を嫌がっていたのか?」、正しい原因がもっと早く専門的にわかっていたら、障害のある患者さんへのアプローチもさらにスムーズに、口腔内から健康への手助けが早まる 것을実感しました。本別冊にあるアプローチを息子もよくしてもらっていたので、もっと早く連れていってあげるべきだったと反省もしました。

すこしでも多くの歯科医療従事者が障害のある患者さんの対応を知り、何もできなくても「今日ここに来れたことがマル!」として笑顔で終わってくださると、本人も保護者も救われてまた通院を頑張れるのです。

本別冊では、障害者の基礎知識、対応、歯科医療従事者としての心構えから、心理的アプローチの技術が、さまざまなシーンから丁寧に解説されています。特に治療の前段階から患者さんに接する歯科衛生士の皆さんに手にとっていただき、障害者歯科のバイブルとして理解を深めていただくことを、当事者の母として切に願っています。

最後に、「障害は不便です。でも不幸ではありません。私たち家族は、大変なときもあるけど幸せです」と娘が学校の作文で書いています。ヘレン・ケラーの本の一節のようです。障害のある患者さんもご家族も、歯医者さんは行きやすい場所。みんな違ってみんないい。障害があっても笑顔で当たり前に通える——。そんな歯科医院がどうか増えますように。